



本小35番目の桜の木 宝積桜開花しました

7月15日(火)に本宮小学校35番目の桜の木「宝積桜」に花が咲きました。

新種の桜の木です。本宮小学校にしかない特別な桜の木!それが「宝積桜」です。

本小の校訓である「宝積」については、皆さんもご存じの通り「人のために尽くして見返りを求めない」です。ですが、「言うは易し、行ふは難し」です。

自分のことができていないのに人のことなどできるわけがありません。ですから本小の子は、日頃から自分の生活をよくしていくことから頑張っています。その上で、誰かのためになることを自ら行う・挑戦することに取り組んでいます。(結果以上に気持ちと取り組むプロセスが重要です)

人に言われてやっていることは、単にやらされているだけ。それでは、宝積桜に花は咲きません。

そこで子供たちは考えます。

・〇〇すると学校が綺麗になるなあ…。そうだ!～～してみよう!

・困っている人(泣いている人)が居るぞ…。声をかけて一緒に考えてみよう!(励ましてみよう!!)

・クラスのみんなが気持ちよく生活できるよう～～してみよう!!〇〇さんも誘ってやってみようっと…。

毎日生活していく中で、子供たちは、様々なことを見たり聞いたり感じたりしながら「気づき」「考え」「行動」しています。心が動き、体も動く。その瞬間に宝積桜の木に「花」は咲きます。子供たちの姿を見てるともっともっと花は咲いていきそうです。1年かけて「宝積桜」が満開になっていくのが楽しみです。



かたづけ名人
見つけた!!
友達がかたづけわすれたところを
何も言わずにいつもそと
かたづけてあげてましたね
教室がきれいなのは
あなたのおかげです!!
ありがとう

おそうじ名人
あそび3くみ!!
よこれているところをみつけた
じょうかびか、にそうじを
すばらしい!!
きれいなきょうしつ
きもちがいいね!!
これからもつづけてよう!!

3年生の
総合の探検の帰りが
おそくになった時、科
学館チームの人が
給食の食かんを3
クラス分はよんでくれたね。ありがとう!!

1-1 毎朝、進んで
あさがおのお世わ
しているすがたが、
とてもすてきですね!!
どんないろのお花
がさくのかな?

6年生が1年生に
行っているふれあい活動。
朝、休み時間、給食時間、
そくじ時間など様々な時間
に進んで行っている姿が
1年生も6年生もうれしそで、
見ている方もうれしくなる。

朝、道徳年の子が、道徳年
の手紙を下の給食まで送っていて、
バリエーションお見逃しして別冊風景の
いいよ、と思いはす
本人達は宝積していると思っていない
と思いつつ、安心して登校する
一冊に悩んでいると思いはす。

身を守る泳ぎ方を学びました～着衣泳～

7月16日(水)本宮小学校プール納めの日に6学年で着衣泳について学びました。服を身につけたまま水に入ってしまうような状況になったとき、どのような感覚になるのか体験の場を通して学びを深めました。

水を含んだ服は、体に絡みつき思うように動きません。もがけばもがくほど体は沈みます。そのため、まずは慌てず浮くための方法を試してみます。

ランドセルを使ったり、ビニール袋を使ったり、濡れた服を使って空気を含ませてみたり。いつもとは違った感覚を楽しみながら、身を守るための学習を行い小学校の水泳学習のまとめとしました。



ふるさとの先人について学ぶ ～わんぱく原敬塾～

今年も、原敬記念館の館長 荒川享司先生を講師にお迎えして、「わんぱく原敬塾」が4～6年生の子供たちを対象に開催されました。

4年生は7月9日(水)に原敬の少年時代について、5年生は11日(金)に原敬が総理大臣になるまでについて、6年生は10日(木)に原敬の総理大臣としての働きについて学びました。

このように、3年間をかけて郷土の先人・原敬について学ぶことを通して、普段の生活や活動に「宝積」の心を生かしよりよく生きていこうとする心を育むことねらいとして行っています。



子は親の鏡

～ドロシー・ロー・ノルト～

最近、ふと思い立って本棚を整理してみました。

若い頃買って読んだ本、仕事に疲れたときに元気をもらった本、子供を授かったとき手にした本など懐かしい本が次から次へと出てきて整理どころではありません。(手にした本をつい読んでしまいます)その中から懐かしい詩がありましたので皆さんに紹介します。

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
 とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
 不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
 「かわいそうな子だ」と言われて育つと、
 子どもは、みじめな気持ちになる
 子どもを馬鹿にすると、引つ込みあんな子になる
 親が他人を羨んでばかりいると、
 子どもも人を羨むようになる
 叱りつけてばかりいると、
 子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまふ
 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
 広い心で接すれば、キレる子にはならない
 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
 分かち合うことを教えれば、
 子どもは、思いやりを学ぶ
 親が正直であれば、
 子どもは、正直であることの大切さを知る
 子どもにも公平であれば、
 子どもは、正義感のある子に育つ
 優しく、思いやりをもって育てれば、
 子どもは、やさしい子に育つ
 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
 和気あいあいとした家庭で育てば、
 子どもは、
 この世の中はいいところだと思えるようになる

ドロシー・ロー・ノルト

石井千春 訳